

実施結果報告書

1. 学校名： 小千谷市立南小学校					
2. 学習名称：たいよう学年のSNG（すごい！・なかよし！・がんばれ！） 大調査					
3. テーマ：信濃川と水上交通					
4. 実施教科：総合的な学習の時間 社会科（4年）					
5. 関連単元：わたしたちの新潟県 流木アートに挑戦					
6. 実施単元数：総合7 社会1 図画工作1					
7. 学年	4	8. クラス数	1	9. 生徒数	12
<p>10. 実施内容</p> <p>(1) 信濃川って（4月）</p> <p>(2) 信濃川とふれ合おう（5月）</p> <p>(3) 信濃川のS（すごい）大調査（6～10月）</p> <p>(4) 信濃川のN（なかよし）大調査（6～10月）</p> <p>(5) 信濃川のSNGを探る旅（10月）</p> <p>(6) 信濃川のG（がんばれ）大調査（11～1月）</p> <p>(7) 信濃川のSNGを発信しよう（2～3月）</p> <p>11. 学習のながれ</p> <p>(1) 信濃川って</p> <p>信濃川について、これまでの経験から知っていることを話し合った。交通に関しては、橋のことや、昨年度地域学習で学んだ信濃川の渡し舟のことを発表する子がいた。学芸員の方に説明していただいたことは覚えており、信濃川の交通について興味をもつきっかけとなった。</p> <p>(2) 信濃川とふれ合おう</p> <p>これから学習する信濃川をより身近に感じるために、学校近くの信濃川岸で流木アートを作成した。流木以外のごみの多さに驚き、後にこれらを何とかしたいと考えるきっかけとなった。</p>					

(3) 信濃川のS (すごい) 大調査

信濃川の「長さ」は日本一ということで、どこから始まり(水源)、どんなどころを通り(流域)、どこに行きつくのか(河口)を調査した。さらに、「水の量」も日本一ということを知り、その理由を調べる中で治水や防災の学習にも学びを深めた。

(4) 信濃川のN (なかよし) 大調査

信濃川に生息する生き物を調べる中で、「昆虫の種類が日本一」だと知った。「なぜ、そんなにたくさんの昆虫が棲んでいるのか」という疑問から、信濃川の環境についての学習を進めた。また、外来種が多いことを知り、在来種を守るためどうしたらよいかを考えた。

(5) 信濃川のSNGを探る旅

①見たよ! 信濃川河口・新潟西港(新潟港湾事務所)

始めに港湾事務所の方から新潟港について説明を受けた。子ども達が説明を聞き、驚いたことは以下のようなことである。

- ・東港も合わせた新潟港は中国や韓国、ロシアなどの外国と行き来があること。
- ・日本海側では3番目に貨物取扱量が多いこと。
- ・カーフェリーで北海道などに行けること。
- ・新潟港には日米修好通商条約以来の長い歴史があること。
- ・新潟市内には60年くらい前まで、堀割と呼ばれる小さな川が流れていて、街中の物流を支えていたこと。→船が今の自動車の役割を果たしていたこと。

次に、新潟港湾事務所の業務艇に乗り、信濃川河口付近を視察した。子ども達は新潟西港が川の部分にあることや大きな船がたくさん停泊していることにとても驚いていた。

②信濃川ウォーターシャトルに乗船

都市公共交通としての水上バスに可能性を見出そうと始まった信濃川ウォーターシャトル。実際に乗船し、新潟市内を信濃川沿いに周遊した。子ども達は水面から見える通常とは異なる新潟市内の景色に感動していた。そして、突然のお客様「かもめ」と戯れた時間は何よりの思い出となった。ただし、これが移動手段であったかということそうではなかった。観光船としての意味合いが強かったと思われる。

速度は自動車より遅く、船の乗り場が目的地の近くにあるわけではない。昔のように市内各地に堀割があれば別だが、今は道路になっている。不便な乗り物だと感じた子どももいた。

しかしながら、事故もないし、信号もない(渋滞もない)し、排気ガスもたくさんの自動車が走ることと比べると少ない、いい乗り物だと感じる子もいた。急がなければどんどん乗ってみたいと。昨年学習した渡し舟では、それに乗って通学した高校生もいたという話を聞いた。自分の家と会社や学校が信濃川の近くにあれば、便利な乗り物になると感想を述べた子もいた。都市公共交通の視点から水上交通の利用について考える児童が出てきたことは、当初の学習の目的に近づいたと言える。

(6) 信濃川のG (がんばれ) 大調査

河原に何度も足を運ぶ中で、たくさんのごみが落ちていることを知った。川にごみを捨てることで、どのような悪影響が起こるかを調査しまとめた。また、ごみの種類や処理方法について調べる中で、SDGsについても学習を発展させた。

(7) 信濃川のSNGを発信しよう

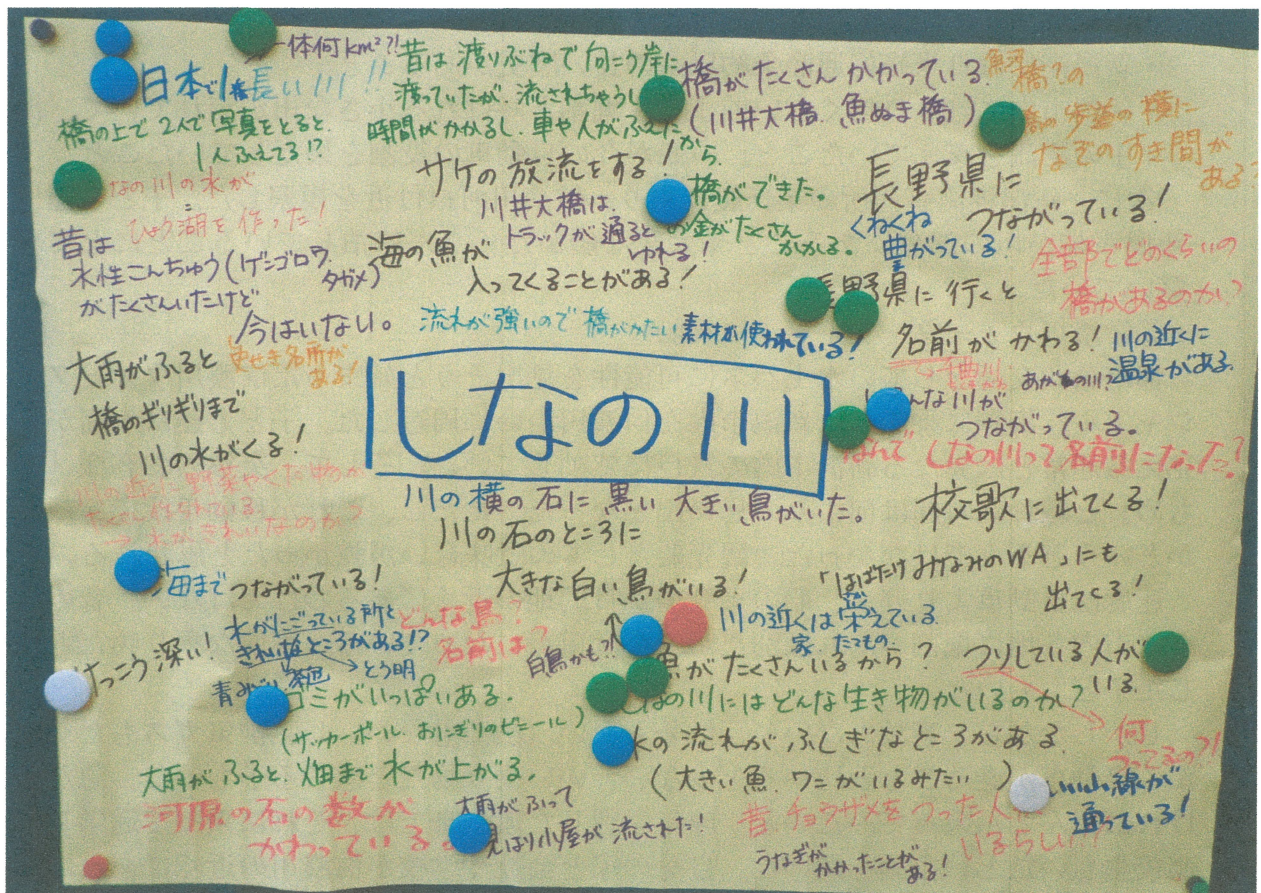
信濃川について学習したことを学習発表会において、劇「信濃太郎 日本一の大ぼ
うけん」として地域の方々に紹介した。また、その後詳しく調べたことを「信濃川
日本一かるた」や「壁新聞」にまとめて全校児童に紹介した。また、昼の放送でも
詳しく説明をした。

12. おわりに

モビリティ・マネジメント教育におけるテーマとした「水上交通」と関わる部分
では、主に(5)の信濃川河口への旅やそのことをまとめた(7)での学習が中心
となった。ただ、その他の学習で目にしたごみの多さ環境への危機感が交通の問題
へとつながり、自動車の交通量は減らした方がいいのではないかとこの考えをもつ
子がふえた。船が代替手段になるかは別として、現在の交通手段に対して疑問を持
つにはよい素材であったのではないかと考える。

<参考資料>

(1) より 信濃川って 児童が出した信濃川について知っていること



(5) より 信濃川のSNGを探る旅日程

校外学習の日程

(通常どおり登校後、教室で朝の会。トイレをすませる。)

- 8:30 南小学校 出発
- 10:00 ①新潟港湾事務所 着
こうわんじむしょ
港湾業務艇に乗船!
信濃川河口付近や新潟西港の様子、日本海を見学します♪
- 11:15 新潟港湾事務所 発
こうわんじむしょ
- 11:30 ②マリンピア日本海 着
信濃川に住む生き物をじっくり観察しよう!
③昼食(弁当)
- 14:00 マリンピア日本海 発
ありあけ けいゆ
有明大橋経由 ④関屋分水路見学
人の手で作られた水路をバスのまどから見学しよう!
- 14:15 ⑤新潟ふるさと村 着
⑥ウォーターシャトル乗船
ウォーターシャトルで周遊&新潟の特産物を知ろう!
- 15:30 新潟ふるさと村 発
- 17:30 南小学校 着 (お家の人の迎え)

(5) ①より 新潟港湾事務所にて



事務所の方からの説明

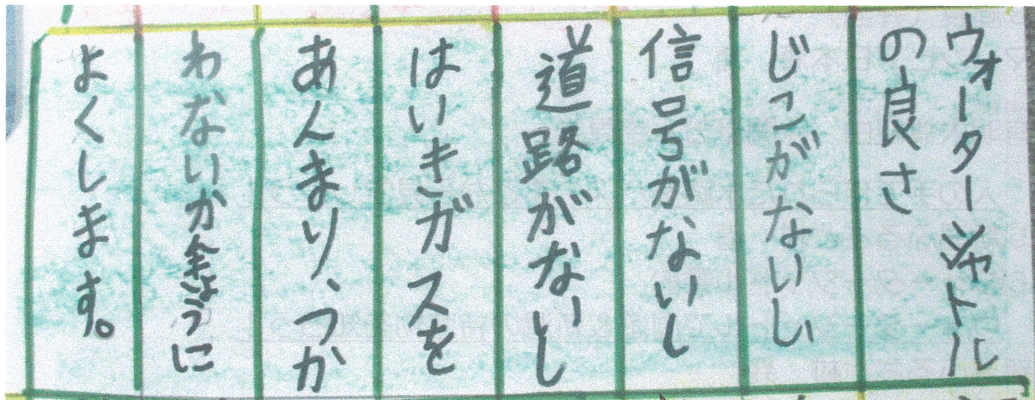


業務艇からの新潟西港視察

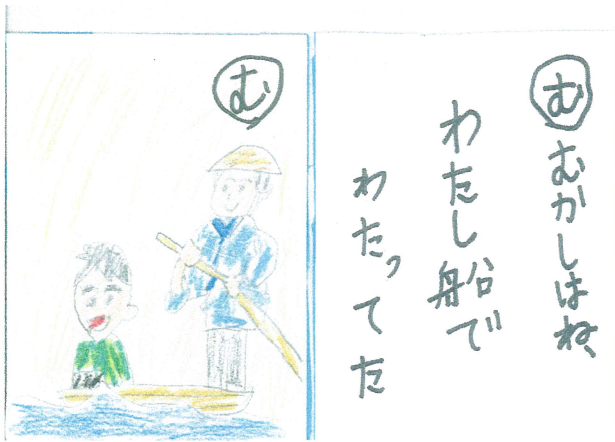
(5) ②より 信濃川ウォーターシャトル



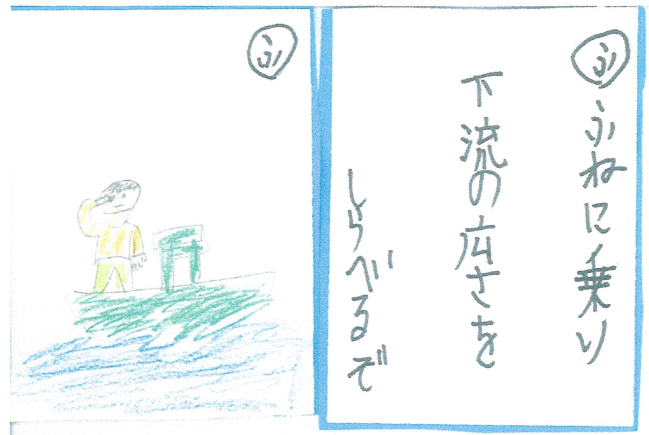
(7) より ウォーターシャトルのヒミツ新聞



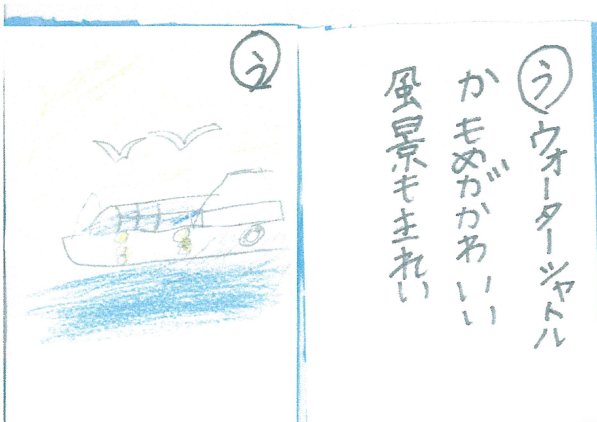
(7) より 信濃川日本一かるた



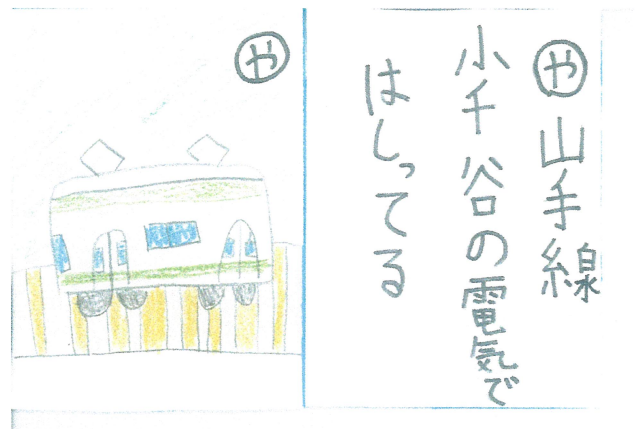
渡し舟についてのかるた



港湾業務艇についてのかるた



信濃川ウォーターシャトルについてのかるた



信濃川発電所についてのかるた